

**ArcGIS**  
10.3

**ArcGIS 10.3 for Server**  
**機能比較表**

## 目次

<b>ArcGIS 10.3 for Server 機能比較表</b> .....	<b>1</b>
はじめに.....	1
本ドキュメントの使用方法.....	2
機能比較表（簡易版） .....	3
<i>ArcGIS for Server</i> の最適なエディションとレベルの選択 .....	3
機能比較表（詳細版） .....	9
Web サービス .....	9
Web 編集.....	11
空間タイプをサポートするデータベースの利用.....	13
ジオデータベース管理.....	13
ジオプロセッシング .....	15
イメージ サービス.....	16
GIS ポータル .....	18
リアルタイム データ処理 .....	19
スマートフォン・タブレットアプリケーション / SDK .....	22

# ArcGIS 10.3 for Server 機能比較表

## はじめに

Web GIS は、GIS 機能を Web 上に公開するパターンであり、Esri の製品戦略である「GIS as a platform」の核となるテクノロジーです。Web GIS のキー コンセプトは、組織のすべてのメンバーが簡単に GIS コンテンツにアクセスし、GIS コンテンツの利用を促進することです。Web GIS は、組織内にある既存の GIS 資産の活用や、GIS と他のビジネス システムを統合するためのプラットフォームを提供し、組織間のコラボレーションを促進します。その結果、Web GIS は、組織内の GIS 利用範囲を拡大し、より良い意思決定を可能とする情報基盤を提供します。

ArcGIS for Server は、独自のインフラストラクチャに ArcGIS プラットフォームを導入することで、この Web GIS パターンを実現します。ArcGIS プラットフォームを導入することで、組織内の誰もが、任意のデバイスから、いつでも、どこでも、地理的なコンテンツを検索、作成、使用、または共有することができるようになります。ArcGIS for Server は、組織のオンプレミスまたは仮想環境のインフラストラクチャで動作するように設計されており、既存の IT インフラストラクチャや組織のセキュリティ システムと連携して動作するように設定できます。

概念的に、ArcGIS for Server は、サービス、アクセス、およびアプリケーションの 3 つの主要な層で構成されています。サービス層は、GIS リソースを GIS Web サービスとして共有することを可能にする GIS サーバーが含まれます。アクセス層は、GIS コンテンツにアクセスするための入り口となるポータル (Portal for ArcGIS エクステンション) が含まれます。ポータルは、GIS サーバーが提供する GIS リソースとツールと組織内のユーザーを結びつけるユーザー フレンドリーなサイトです。ポータルのユーザーは、GIS コンテンツの検索、マップの作成、アプリケーション テンプレートの活用、さらに使いやすいウィザード (WebApp Builder for ArcGIS) を使用してプログラミングすることなく Web アプリケーションを作成することができます。ポータルは、組織内の GIS コンテンツを整理し、セキュリティ設定を行い、アクセスを容易にするのに役立ちます。アプリケーション層は、Web やスマートフォン、タブレットですぐに使用できる生産性の高いアプリと、Microsoft Office

や SharePoint、 IBM Cognos、 MicroStrategy などの一般的なビジネス システムのプラグイン ツールが含まれます。これらの層のすべては組織のインフラストラクチャ内の Web GIS のパターンを構成し、ArcGIS for Server で利用可能です。

さらに、開発者は、ArcGIS REST API や ArcGIS Runtime SDK を使用し、 ArcGIS for Server を利用したカスタム アプリケーションを開発することができます。

## **本ドキュメントの使用方法**

本ドキュメントは、組織に合った ArcGIS for Server のエディション（機能）およびレベル（規模）の決定を助けるためのガイドです。

以下の「[機能比較表（簡易版）](#)」のセクションでは、ArcGIS for Server の GIS サービスの機能、分析とワークフロー機能、利用可能なアプリ、規模レベルを紹介します。この情報を、組織内で ArcGIS for Server を使用するユーザー数とユーザーが実行する作業と比較検討する必要があります。

次の「[機能比較表（詳細版）](#)」のセクションでは、ArcGIS for Server 特有の重要な概念に関する追加情報が含まれています。

## 機能比較表（簡易版）

### ArcGIS for Server の最適なエディションとレベルの選択

組織に最適な ArcGIS for Server の機能と規模を選択するためには、以下の 2 つの質問をご検討ください。

- GIS システムにはどのような機能とアプリケーションが必要ですか？
- GIS システムはどのくらいの規模（ストレージと同時接続数）をサポートしますか？

#### GIS サービスの機能

ArcGIS for Server は機能に応じて 3 つのエディション（Basic, Standard, Advanced）を提供しています。Basic から Advanced エディションの順番で、より多くの機能を提供しています。

- Basic  
Basic エディションでは、ジオデータベースの管理と検索および参照専用のフィーチャ サービスを公開する機能を提供します。また、ジオメトリ サービスとジオデータ サービスを公開する機能も利用できます。
- Standard  
Standard エディションでは、Basic エディションのすべての機能に加えて、ArcGIS Server が公開可能なすべての GIS Web サービスの機能を提供します。これにより、マップや画像、3D グローブなどを Web サービスとして扱うことが可能です。また、フィーチャ サービスを使用した Web 編集と ArcGIS for Desktop Standard で利用可能なジオプロセッシング ツールを使用したジオプロセッシング サービスの公開することができます。最後に、ポータル構築を可能とする Portal for ArcGIS も利用できます。
- Advanced

Advanced エディションでは、Standard エディションのすべての機能に加えて、ArcGIS for Desktop Advanced で利用可能なジオプロセッシング ツールを使用したジオプロセッシング サービスの公開を行うことができます。

以下の表は、エディションごとに利用可能な機能を表します。各機能の詳細は、「[機能比較表 \(詳細版\)](#)」セクションをご参照ください。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
空間タイプをサポートするデータベースの使用*	○	○	○
ジオデータベース管理	○	○	○
GIS Web サービスの作成と管理	○	○	○
Web マッピング アプリケーション	○	○	○
スマートフォン / タブレット アプリケーション	○	○	○
Web 編集		○	○
イメージ処理と解析		○	○
ジオプロセッシング		○	○
高度なジオプロセッシング		○**	○
ポータル サイトの構築		○	○
リアルタイム データ処理と監視		○***	○***

\* : データベース固有の空間データ型をサポートします。

\*\* : 高度なジオプロセッシング機能を利用するにはエクステンションが必要です。

\*\*\* : ArcGIS GeoEvent Extension for Server が必要です。

ArcGIS for Server はエクステンションを利用することで、高度な機能を追加することが可能です。

エクステンション	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
Portal for ArcGIS		○*	○*
ArcGIS Spatial Analyst for Server			○
ArcGIS 3D Analyst for Server			○
ArcGIS Network Analyst for Server		○**	○
ArcGIS Image Extension for Server		○**	○**
ArcGIS GeoEvent Extension for Server		○**	○**

\* : ArcGIS for Server Standard エディション以上のライセンスを利用する場合、保守有効期間内利用可能な Portal for ArcGIS の指定ユーザー ライセンスが含まれます。この指定ユーザー ライセンスは、別途購入する追加指定ユーザー ライセンスに追加し、Portal for ArcGIS で認証することができます。Portal for ArcGIS の指定ユーザー ライセンスの詳細は、「[GIS ポータル](#)」のセクションをご参照ください。

\*\* : オプション

各エクステンション製品の詳細は、弊社 Web サイトの「[ArcGIS for Server エクステンション](#)」をご参照ください。

ArcGIS for Server はすぐに利用可能なさまざまなクライアント アプリケーションを利用できます。以下の表は、エディションごとに利用可能なクライアント アプリケーションを表します。

ArcGIS クライアント アプリケーション	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ArcGIS for iOS, Android, Windows Phone	○	○	○
Operations Dashboard for ArcGIS**		○*	○*
Collector for ArcGIS		○*	○*
Explorer for ArcGIS		○	○
Esri Maps for Office		○*	○*
Esri Maps for SharePoint		○*	○*
Esri Maps for IBM Cognos		○*	○*
Esri Maps for MicroStrategy		○*	○*
ArcGIS for Windows Mobile		○	○

\* : Portal for ArcGIS の指定ユーザー アカウントが必要です。

\*\* : Operations Dashboard for ArcGIS には、以下の 2 つのバージョンがあります。

- オペレーション ビューの作成・参照用の Window ベースのデスクトップ バージョン
- オペレーション ビューの参照用のブラウザ ベース バージョン



## 規模

ArcGIS for Server は前セクションでご紹介した 3 つのエディションに加え、利用規模（レベル）に応じて Workgroup と Enterprise の 2 つのライセンスが存在します。

	レベル	
	Workgroup	Enterprise
マルチユーザー ジオデータベースへの最大同時接続数	10	無制限
Web サービスへの最大同時接続数	無制限	無制限
マルチユーザー ジオデータベースの格納容量	10 GB*	無制限
利用できる最大コア数	4 コア	無制限**
ArcGIS for Server コンポーネントの分散配置	不可***	可

\* : ArcGIS 10.3 for Server Workgroup には

Microsoft SQL Server Express 2012 が同梱されており、データベースの最大容量が合計で 10 GB に制限されています。

\*\* : Enterprise の基本ライセンスでは、4 コアまでの利用が許可されています。

コア数が増える場合は、別途追加ライセンスが必要となります。

\*\*\* : Workgroup ライセンスは、すべてのコンポーネントを同一マシンにインストールする必要があります。

システムに要求される機能と規模を選定することで、ArcGIS for Server のエディションとレベルを特定することが可能です。たとえば、ArcGIS for Server Enterprise Standard はマルチユーザー ジオデータベースへの無制限アクセスやエンタープライズ ジオデータベースの構築、標準的な ArcGIS for Server の機能をサポートします。

## 動作環境

すべてのエディションとレベルの ArcGIS for Server は、64 ビット オペレーティング システム（以下、OS）にインストールする必要があります。ソフトウェアは、物理サーバー、仮想サーバー、または、クラウド インフラストラクチャにインストールすることが可能です。

	レベル	
	Workgroup	Enterprise
Windows 64 ビット OS	○	○
Linux 64 ビット OS		○*

\* : エンタープライズ ジオデータベースのみサポートされます。

最新の動作環境とサポートされる OS については、弊社 Web サイトの「[ArcGIS for Server 動作環境](#)」ページをご参照ください。

## 機能比較表（詳細版）

### Web サービス

Web サービスは、ArcGIS for Desktop や Web アプリケーション、モバイル端末、3rd パーティ アプリケーションなどのクライアント アプリケーションで GIS のリソース共有を簡単に実現することができます。

#### **GIS Web サービスとは**

GIS Web サービスはローカル ネットワークまたはインターネットを介して GIS のリソースを共有するために利用されます。ArcGIS for Server で公開する Web サービスは、Web の標準である REST (Representational State Transfer)、業界標準である SOAP (Simple Object Access Protocol)、Open Geospatial Consortium (OGC) 標準に準じています。

以下の GIS Web サービスの機能が利用可能です。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ジオデータベース レプリケーション	○	○	○
フィーチャ サービス (参照のみ)	○	○	○
ジオメトリ サービス	○	○	○
ダイナミック マップ サービス		○	○
キャッシュ マップ サービス		○	○
フィーチャ サービス (編集)		○	○
イメージ サービス		○	○
ジオプロセッシング サービス		○	○
ジオコード サービス		○	○
印刷用サービス		○	○
サーチ サービス		○	○
グローブ サービス		○*	○*
ネットワーク解析サービス		○**	○**
ストリーム サービス		○***	○***
モバイル データ サービス (Windows Mobile)		○	○

\* : ArcGIS 3D Analyst for Server が必要

\*\* : ArcGIS Network Analyst for Server が必要

\*\*\* : ArcGIS GeoEvent Extension for Server が必要

## **Web 編集**

ArcGIS for Server の以下のサービスを使用し、データベースまたはデータベース内のジオデータベースに格納される空間情報および属性情報を Web 経由で編集することができます。

- フィーチャ サービス
- ホスト Web レイヤー (Portal for ArcGIS が必要です。)
- ジオメトリ サービス (補助的に編集ワークフローに利用される場合があります。)

### **フィーチャ サービスとは**

フィーチャ サービスは イン트라ネットおよびインターネットを介したマルチユーザー ジオデータベースの編集をサポートします。Web ブラウザー、モバイル アプリケーション、REST や OGC WFS-T に対応したクライアントは、このサービスを介して地理空間データの追加、削除、更新を行うことができます。

フィーチャ サービスはステートレスな REST Web サービスとして実装されており、最高のパフォーマンスとスケーラビリティを提供します。ArcGIS for Desktop で作成した フィーチャ テンプレートをサービスとして公開することで、Web を介して構造化された GIS データの編集を実現します。これにより、クライアントはユーザーに直観的な Web 編集環境を提供します。

フィーチャ サービスはデータベースに格納される空間タイプの直接アクセスをサポートします。マルチユーザー ジオデータベースは「ジオデータベースの利点」で紹介されているような機能を提供しますが、ArcGIS for Server はジオデータベースにテーブルを登録することなく、直接空間タイプのデータを参照 / 編集可能なフィーチャ サービスをサポートします。

### **ホスト Web レイヤー**

ホスト Web レイヤーは、マップの描画、編集、および検索に使用します。Portal for ArcGIS や ArcGIS Online のポータルからマップとデータをホスト Web レイヤーとして公開することが可能です。または、ArcGIS for Desktop から直接マップをホスト Web レイヤーと

して公開することができます。

以下の 2 種類の ホスト Web レイヤーを公開することが出来ます。

- フィーチャ レイヤー

ホスト フィーチャ レイヤーは、ベクトル フィーチャの検索、描画、編集をサポートします。ホスト フィーチャ レイヤーは、ベースマップ上に表示するデータとして適しています。Web アプリでは、ホスト フィーチャ レイヤーはブラウザを使用して描画され、インタラクティブは強調表示や検索、ポップアップ表示をサポートします。

ホスト フィーチャ レイヤーは、ポータル上で Zip 圧縮されたシェープファイルや CSV ファイル、フィーチャ コレクション、ArcMap ドキュメント、ArcGIS Pro マップ、およびファイルジオデータベースを使用して公開できます。

- タイル レイヤー

ホスト タイル レイヤーは、予め描画されたマップ タイル (イメージ) を使用した高速なマップ描画をサポートします。マップ タイルは、データをポータルへアップロードした後に生成され、サーバー上に格納されます。ホスト タイル レイヤーは、マップに地理的な背景を提供するベースマップとして使用することに適しています。

- ジオメトリ サービス

ジオメトリ サービスは、以下のようなジオメトリ演算の機能をアプリケーションに提供します。ジオメトリ サービスはフィーチャ サービスと組み合わせて利用することで、Web 上での複雑な GIS 編集をサポートします。

- バッファ
- 単純化
- 面積と距離の計算
- 投影変換

## **空間タイプをサポートするデータベースの利用**

ArcGIS for Server は空間タイプをサポートする商用データベースに格納された空間データを直接利用、管理することが可能です。ArcGIS for Server Basic では、空間タイプのデータを参照専用のフィーチャ サービスとして利用可能です。フィーチャ サービスを利用することで、データベースの情報を Web ブラウザーやモバイル端末のアプリケーションのマップに表示したり、検索したりすることが可能です。以下のデータベースがサポートされます。

- IBM DB2
- Microsoft SQL Server
- Microsoft SQL Server Express
- Oracle
- PostgreSQL

ノート：すべてのデータベースにおいて、ArcGIS for Server Enterprise Basic エディションでは参照専用、ArcGIS for Server Enterprise Standard および Advanced エディションでは参照・編集用のフィーチャ サービスとして公開できます。Microsoft SQL Server Express は、ArcGIS for Server Workgroup Basic エディションでは参照専用、ArcGIS for Server Workgroup Standard および Advanced エディションでは参照・編集用のフィーチャ サービスとして公開できます。

## **ジオデータベース管理**

ジオデータベースは、バージョンングやトポロジ、ジオメトリック ネットワーク、ネットワーク データセットなどの地理空間データ モデルなどのより高度な GIS データ管理ワークフローや地理空間情報データ モデルをサポートするために、ArcGIS for Server のデータベース空間機能を拡張します。

ArcGIS for Server Basic 以上のエディションで提供されるジオデータベース管理機能は、ArcGIS for Desktop からユーザーの同時編集を可能にし、ジオデータベースの分散管理を実現します。

## ジオデータベースの利点

商用データベースはシンプルな空間データをサポートします。ジオデータベースはこのフレームワーク上に構築され、データベースの機能を拡張することで以下のような高度な GIS データ モデルや最も要求の厳しい GIS ワークフローをサポートします。

- ロング トランザクションと競合解決 (バージョンニング)
- 施設、河川、交通ネットワーク モデル
- トポロジ、属性、接続ルールに準じたデータ検証
- トランザクションの履歴管理
- アノテーション (テキスト)、ディメンション、土地台帳などの複雑なデータ
- 高度なシンボル (カートグラフィック リプレゼンテーション)
- 接続/非接続環境でのデータベース分散管理 (ジオデータ サービス)
- 

Enterprise レベルは、以下のデータベース環境において ArcSDE ジオデータベースをサポートします。

- IBM DB2
- Microsoft SQL Server
- Oracle
- PostgreSQL

Workgroup レベルは、Microsoft SQL Server Express のみサポートします。

- Microsoft SQL Server Express



## ジオプロセッシング

ArcGIS for Server は数多くのジオプロセッシング機能を提供します。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ジオプロセッシング	—	○	○
高度なジオプロセッシング	—	○*	○*

\* : 要エクステンション

### ジオプロセッシング サービスとは

ジオプロセッシングは入力データセットを受け取り、そのデータセットの処理を実行し、処理の結果として出力データセットを作成します。

ジオプロセッシング サービスは、ArcGIS の強力な分析機能を Web サービスとして公開するための機能です。ジオプロセッシング サービスは、Web アプリケーションで取得したシンプルなデータを処理し、フィーチャやマップ、レポート、ファイルなどの形式で意味があり有用な出力を出すジオプロセッシング タスクを含みます。

ArcGIS for Server では、サーバーへのジョブの入力と結果の受け取りを可能とするジオプロセッシング サービスを公開できます。ジオプロセッシング サービスの公開には、ArcGIS for Desktop の ModelBuilder の機能を利用してモデルを作成する必要があります。モデルは GIS の処理を自動化するための論理的に連結されたジオプロセッシング ツールまたはスクリプトです。ArcGIS for Server はモデルを利用してサービスを実行することにより、クライアントのコンピューター リソースを解放し、クライアント コンピューター間でモデルの複製を作成する問題を解決します。

ジオプロセッシングは ArcGIS for Desktop Standard レベルのジオプロセッシング ツールボックスと同様のツールをサポートします。

## 高度なジオプロセッシングとは

高度なジオプロセッシングは、ArcGIS for Server Analyst エクステンション（3D Analyst、Spatial Analyst、Network Analyst）で提供される追加のツールです。高度なジオプロセッシングの例は、高度なルート解析や適合性分析です。

ArcGIS for Server Advanced エディションは、高度なジオプロセッシング機能を提供する上記のエクステンションがバンドルされます。

## イメージ サービス

ArcGIS for Server は効果的に画像を処理し、配信する機能を提供し、様々な用途のアプリケーションから利用することができます。イメージ サービスは単一の画像（ラスター データセット）やモザイク データセットに追加された複数の画像を配信することができます。

### **ArcGIS Image Extension for Server とは**

ArcGIS Image Extension for Server は、ArcGIS for Server がモザイク データセットを配信するために必要なエクステンション製品です。

モザイク データセットは、大量の画像を参照し、付随するモザイク ルールを定義することでオンザフライ処理を可能にするジオデータベースのデータ モデルです。モザイク データセットは、一般的に ArcGIS for Desktop（Standard または Advanced）のツールを使用して作成し、画像データを扱う豊富な機能を提供します。作成したモザイク データセットは、ArcGIS for Desktop で直接使用するほかに、ArcGIS for Server を使用してイメージ サービスとして公開することができます。イメージ サービス用の API は、アプリケーションがモザイク データセットをカタログとしてのモザイク データセットへのアクセス、画像表示に関する多くのプロパティの管理、分析で使用するデータの値へのアクセスを可能にします。

機能	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
イメージ サービス - 単一の画像 (ラスター データセット)	—	○	○
イメージ サービス - モザイク データセット	—	○*	○*

\* : ArcGIS Image Extension for Server が必要

## イメージ サービス

イメージ サービスは Web サービスとして画像やラスターを配信することを可能にし、表示や分析に使用することができます。イメージ サービスはオルソ幾何補正やパンシャープ処理、陰影起伏処理、バンド コンビネーションの変更といったオンザフライ処理機能を定義することができます。

イメージ サービスはあらゆる画像ソースを直接配信することができます。さまざまな画像に対して、前処理を必要とせずに、元の画像から変換処理を実行した画像を作成することができます。つまり、1 つの画像ソースから複数の表示方法を提供することが可能です。イメージ サービスにはイメージ サービス用の API を使用してアクセスします。

ArcGIS for Server の画像処理は ArcGIS for Desktop の画像処理や分析機能とほぼ同等です。イメージ サービスは TIFF ファイルなどのラスター データセット、ラスター レイヤーを直接配信ことができ、参照用のラスター データセットに対して、追加の処理をオンザフライで適用することができます。

## 上記以外の画像配信方法

ArcGIS for Server を使用して、画像のキャッシュ タイルを生成し直接サービスとして公開することも可能です。

ArcGIS for Desktop または ArcGIS for Server を使用しモザイク データセットの画像のキャッシュ タイルを作成することで、ArcGIS for Server のマップ サービスとして公開す

ることが出来ます。画像をキャッシュ化してサービス配信する方法は、画像を表示専用で追加処理や分析の必要がない場合に適している方法です。

## GIS ポータル

GIS ポータルは、組織の GIS 部門を超えた大きなコミュニティに地理的なコンテンツやサービスを利用できるようにします。また、さまざまな組織のリソースの地理的な情報を集約し、統一された方法で簡単に検索、使用そして共有することを可能にします。

Portal for ArcGIS は ArcGIS for Server Standard および Advanced で利用可能でエクステンション製品で、マップやアプリを共有するユーザー フレンドリーで検索可能なレポジトリを提供します。このレポジトリは、オンプレミスまたはクラウド環境などのインフラストラクチャにインストールすることができます。

Portal for ArcGIS は、ArcGIS for Server とは別にインストールが必要なソフトウェアです。また、通常の ArcGIS for Server 製品のコア数単位でのライセンスとは異なり、Portal for ArcGIS で必要となる指定ユーザー数に応じた指定ユーザー ライセンスが必要となります。

	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
Portal for ArcGIS		○	○

Portal for ArcGIS は、Web GIS を可能とする ArcGIS プラットフォームの中心となるコンポーネントで、以下のような機能を提供します。

- 組織内のユーザーがコンテンツを検索、使用、共有できる Web サイト
- Web マップを作成するためのマップ ビューアー
- Web マップを参照する Web アプリを作成する Web App Builder for ArcGIS
- ユーザー、グループ、コンテンツを管理するための管理ツール
- Activity Dashboard と呼ばれるアイテム、ユーザー、または、グループの統計情報のレポート機能を管理者に提供するツール

- Collector for ArcGIS、Operations Dashboard for ArcGIS、および Esri Maps for xxx (Office、SharePoint、IBM Cognos、および、MicroStrategy など) などの ArcGIS アプリ

ArcGIS アプリ、マップ ビューアーおよび Web AppBuilder for ArcGIS に加えて、Portal for ArcGIS は Web マップを共有するための、用途別で構成可能なアプリケーション テンプレートが含まれています。

ArcGIS for Server はエディションとレベルに応じて、Portal for ArcGIS で利用可能な指定ユーザー ライセンスが含まれます。

エディション	レベル	
	Workgroup	Enterprise
Advanced	10*	50**
Standard	5*	5*

\* : ArcGIS for Server Workgroup Standard / Advanced で利用可能な指定ユーザー ライセンス数は最大 10 指定ユーザーまでとなります。

\*\* : ArcGIS for Server Enterprise Standard / Advanced では、Portal for ArcGIS の追加指定ユーザー ライセンスを購入可能です。

## リアルタイム データ処理

リアルタイム データ処理は、高速、大容量データ、または、静的なフォーマットまたは動的なデータ ストリームの両方を取り扱う組織にとって重要な考慮事項です。近年では、リアルタイム データ ストリームを提供するデータソース数が増加しており、このイベント データを利用し、すぐに表示できるアプリケーションはより重要になっています。ArcGIS for Server は、このリアルタイム データ処理機能をエクステンション製品で提供しています。

### **ArcGIS GeoEvent Extension for Server とは**

ArcGIS GeoEvent Extension for Server (以下、GeoEvent Extension) は、イベント ベースのリアルタイム データ ストリームをエンタープライズ GIS のデータソースとして取り込むことで ArcGIS for Server の機能を拡張します。GeoEvent Extension は、ArcGIS

for Server とは別にインストールが必要なソフトウェアです。

	エディション		
	Basic	Standard	Advanced
ArcGIS GeoEvent Extension for Server		○*	○*

\* : オプション

イベント データは、実質的にどのような種類のストリーミング データでも接続でき、複数のストリーミング データに接続することも可能です。接続したイベント データは、フィルタリングやイベント処理が可能で、処理後のデータを複数の送信先に送信することができます。これにより、特定の状況が発生した場合に、自動的にリアルタイムで作業員に警告を送信したり、分析者が最も興味深いイベント、場所、および処理のしきい値を発見し焦点を当てることを可能にします。

GeoEvent Extension は、ArcGIS Server の Web ブラウザー ベースの管理ツールである ArcGIS Server Manager と類似した ArcGIS GeoEvent Manager と呼ばれる管理ツールを提供しています。ArcGIS GeoEvent Manager は、GeoEvent サービスを作成し公開するために使用します。その他にも、以下の機能が含まれます。

- 一般的なデータ フォーマットに対応したコネクタ。たとえば、テキスト、RSS、Esri フィーチャ JSON、および一般的な JSON 用のコネクタが提供されます。その他にも、データ通信チャネルである、システム ファイル、HTTP、TCP、UDP、WebSocket、および、Esri フィーチャ サービス用のコネクタも提供されます。
- イベント データの入力から出力までに、データを識別、拡張するような豊富な処理機能のセット。
- 構成可能で標準的な属性フィルタリング ツールと、ジオフェンスと呼ばれる空間リレーションシップ をもとにイベント データをフィルタリングする強力な空間フィルタリング ツール。

GeoEvent Extension は毎日使用する GIS アプリケーションを、いつでもどこでも発生する変化に対しての意識を高め迅速に対応可能とする現場の意思決定アプリケーションに変化

させます。

### **ストリーム サービスとは**

GeoEvent Extension は、クライアントとサーバー間のデータ フローの遅延が少なく、リアルタイムでデータを配布することに特化したストリーム サービスの作成・公開をすることができます。ストリーム サービスに接続するクライアントは、サービスに登録した直後にデータの受信を開始します。クライアントは、サービスから切断し再接続することなく、空間と属性両方の制限を指定し再構成することができます。

ストリーム サービスのコンテンツは、ArcGIS Online または Portal for ArcGIS の Web マップへの取り込みや、ArcGIS API for JavaScript を使用して開発したクライアントに公開することができます。

### **Web マッピング アプリケーション / API / Runtime SDK**

ArcGIS for Server のユーザーは、すぐに利用可能な Web マッピング アプリケーションを利用できます。Portal for ArcGIS または ArcGIS Online を使用する場合は、Web AppBuilder for ArcGIS を使用することができます。Web AppBuilder for ArcGIS は、ポータル指定ユーザーが開発をすることなく Web アプリケーションを作成することが可能な、直感的な WYSIWYG アプリケーションです。

- ArcGIS Pro\*
- ArcGIS Online
- ArcGIS Online または Portal for ArcGIS マップ ビューアー\*\*
- Web AppBuilder for ArcGIS\*\*
- ストーリー マップ\*\*
- Web アプリケーション テンプレート\*\*
- Collector for ArcGIS\*\*
- Operations Dashboard for ArcGIS\*\*
- Explorer for ArcGIS\*\*
- Esri Maps for Office\*\*
- Esri Maps for SharePoint\*\*
- Esri Maps for MicroStrategy\*\*

- Esri Maps for Cognos\*\*

\* : ArcGIS for Desktop が必要

\* : Portal for ArcGIS または ArcGIS Online が必要

開発者は、以下の ArcGIS アプリケーション プログラミング インタフェース (API) や ArcGIS Runtime SDK を利用して、カスタム Web マッピング アプリケーションを開発できます。

- ArcGIS API for JavaScript
- ArcGIS Runtime SDK for .NET
- ArcGIS API for Flex
- ArcGIS API for Silverlight
- ArcGIS Runtime SDK for WPF

## スマートフォン・タブレットアプリケーション / SDK

すべてのエディションの ArcGIS for Server はさまざまなプラットフォームのモバイル アプリケーションをサポートします。

- ArcGIS for iOS
- ArcGIS for Android
- ArcGIS for Windows Phone
- Collector for ArcGIS
- Operations Dashboard for ArcGIS
- Explorer for ArcGIS
- ArcGIS for Windows Mobile

開発者は以下の Runtime SDK を利用して、カスタム モバイル アプリケーションを開発できます。

- ArcGIS Runtime SDK for iOS



- ArcGIS Runtime SDK for Android
- ArcGIS Runtime SDK for .NET
- ArcGIS Runtime SDK for WPF
- ArcGIS Runtime SDK for Windows Phone
- ArcGIS Runtime SDK for Windows Mobile

機能		エディション		
		Basic	Standard	Advanced
ArcGIS for Windows Mobile - アプリケーション / SDK	Workgroup	—	—	○*
	Enterprise	—	○*	○

\* : オプション

機能		エディション		
		Basic	Standard	Advanced
ArcGIS for iOS, Android, .NET, WPF, Windows Phone - アプリケーション / SDK		○	○	○

## ArcGIS 10.3 for Server 機能比較表

2015年5月

ESRI ジャパン株式会社

<http://www.esri.jp/>

Copyright(C) Esri Japan. 無断転載を禁ず

本書は Esri 社著作の「ArcGIS 10.3 for Server Functionality Matrix January 2015)」を翻訳したものです。

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。

